

英語の資格・検定試験の活用について（たたき台）

【英語4技能評価の考え方】

＜英語教育の抜本的改革＞

＜資格・検定試験の活用の必要性＞

【英語4技能評価の活用】

＜大学における活用の在り方＞

＜活用を推進するための方策＞

＜測定範囲と結果表示の方法＞

【その他の課題】

＜評価面＞

＜実施方法面＞

【英語 4 技能評価の考え方】

<英語教育の抜本的改革>

- グローバル化が急速に進展する中、英語によるコミュニケーション能力の向上が課題となっており、現行の高等学校学習指導要領では、授業は英語を用いて行うことを基本とし、英語 4 技能（※1）を総合的に育成することが求められている。

また、次期学習指導要領では、小・中・高等学校で一貫した目標を実現するため、外国語の能力を総合的に評価する C E F R（※2）等を参考に、段階的な「国の指標形式の目標」を設定するとともに、統合的な言語活動を一層重視。

※1 英語 4 技能…「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」

※2 C E F R… (Common European Framework of Reference for Languages : Learning , teaching , assessment) の略称。外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠。

- 大学入学者選抜においては、このような高等学校段階の総合的な能力を適切に評価できるようにすることが必要。このことは、グローバル人材育成の取組など、大学教育改革にも寄与。

<資格・検定試験の活用の必要性>

- 本来的には、各大学が個別選抜において英語 4 技能評価を全受検生に実施することが望ましいが、ノウハウや作問・採点者、採点期間・コストなど、体制・負担の観点から課題が大きい。

- 大学入試大学入試センター試験では、従来、コミュニケーション能力を重視した出題範囲の設定（平成 9 年度～）や、リスニングの導入（平成 1 8 年度～）等に取り組んできたが、大卒では「読むこと」「聞くこと」の能力を選択式で問うものとなっており、試験開始以来、大きな変化はない。

また、「話すこと」「書くこと」を含む 4 技能の総合的な評価について、5 0 万人規模での一斉実施のための環境整備等の観点から、センターが直接実施するのは物理的に困難。

このため、「話すこと」「書くこと」を含む統合型の言語活動など、英語教育の抜本的改革に対応するには限界がある。

- 一方、民間の資格・検定試験は、英語 4 技能を総合的に評価するものとして社会的に認知され、定着している。高校教育や大学の初年次教育の場でも活用が進み、推薦・A O 入試を中心に大学入学者選抜にも活用されている。

（参考）・高校 3 年生の 1 2 月時点で英検を受験したことがある生徒数

普通科生徒 7 1 万人中 2 3 万人（約 3 割）（H 2 7 英語教育実施状況調査より）

・大学入学者選抜において英語資格・検定試験を活用している大学（H 2 7 年度）

国立大学では、推薦入試 2 3 . 5 %、A O 入試 1 3 . 6 %、一般入試 1 1 . 1 %

- こうした状況の中、大学入学者選抜において、資格・検定試験を積極的に活用することにより、英語4技能評価を推進することが有効。このことにより、高等学校における授業改善を促進。【別紙1】

【英語4技能評価の活用】

＜大学における活用の在り方＞

- センターが資格・検定試験を認定することにより、CEFRに対応した段階別表示を行うことを想定しているが、認定を受けた試験（以下「認定試験」という。）による4技能評価の円滑な導入・定着や、制度変更に伴う受検生・高校・大学への影響にも配慮する必要がある。このため、当面、以下のとおり対応。
 - ① 認定試験の4技能評価（段階別表示）を活用
 - ② センターが2技能評価を実施＜リーディング、リスニング＞
- この場合、各大学においては、認定試験の段階別表示の結果について、例えば、
 - ・出願資格
 - ・試験免除
 - ・得点加算
 - ・総合判定の一要素などの方法で活用することが考えられる。
- 上記や活用を推進するための方策の円滑な実施状況や定着の状況などを見定めつつ、関係者の意見を踏まえながら、新学習指導要領の下、平成36年度からの認定試験の活用のみによる英語4技能評価の実現可能性等を検討する。

（参考1）認定試験4技能のうち2技能を切り出して活用することが困難な理由

- ・現行の資格・検定試験については、技能統合型の問題を含め、多様な測定方法により総合的なコミュニケーション能力を評価すべく設計され、CEFRの各段階との対応関係も、基本的に4技能の総合評価の観点から検証されている。このため、特定の技能を切り出して評価する場合、技能ごとに、CEFRに対応した信頼性の高い段階別表示を行うことが困難である。
- ・認定試験の2技能とセンターの2技能とでは、それぞれテスト設計が異なり、技能統合型の問題の評価を含め、4技能を統合した結果を表示することは困難。

（参考2）当面、センターの2技能評価を実施する理由

- ・現行のセンター2技能を継承しつつ、既に高等学校教育や大学入学者選抜でも活用されている資格・検定試験を有効活用することにより、新制度による4技能評価の円滑な導入や、定着の状況を見極める必要。

<活用を推進するための方策>

- このような4技能評価を推進していくための仕組みとして、センターが認定試験の結果を一元管理し、これまで個々に行われていた成績提供・受領の中核として機能することにより、
 - ① 一括した提供・受領による大学、受検生、試験団体の各手続きの簡素化とセキュリティリスクの軽減
 - ② 成績受領フォーマットの統一による大学における成績集計の事務コストの削減
 - ③ データ蓄積による改善、様々な検証などが可能。国公立大学における4技能評価を促進する環境を構築。【別紙2】

- そのために、センターが資格・検定試験を認定する形で関与することにより、CEFRに対応した段階別表示とともに、学習指導要領との整合性、信頼性・妥当性、受検料負担の抑制などの水準を担保。

- 認定試験の利用を含む4技能評価の推進については、大学入学者選抜実施要項への反映などを検討。

- 大学関係団体において、4技能評価に関する一定の合意形成などを図るよう調整(認定試験、共通テスト、個別選抜を通じた4技能評価の推進、認定試験の活用方法など)。

- センター未利用大学についても、個別選抜やAO・推薦入試における活用等、認定試験の活用のニーズに対応することを検討。

<測定範囲と結果表示の方法>

- 次期学習指導要領において設定予定の「国の指標形式の目標」では、高等学校卒業段階で求められる力として、必履修科目でCEFRの「A2」相当、選択科目で同「B1」相当を想定。

- また、現行の大学入試センター試験では、必履修科目(コミュニケーション英語I)及び選択必履修科目(コミュニケーション英語II及び英語表現I)が出題範囲。
このため、平成32年度の導入時は、センターが認定した資格・検定試験(以下「認定試験」という。)において、CEFRの「A2」相当及び「B1」相当の能力を測定できるものとするとともに、結果表示は、段階別評価を行うことを基本とする。
※段階の細分化も検討。

- 試験結果については、センターにおいて一元管理し、各大学に提供。

【その他の課題】

<評価面>

- 採点の質
 - ・ 各認定試験団体に、採点の質の確保に関する客観的な検証を行い、そのプロセスに関する情報を記録・公開していることを求める。
あわせて、信頼性向上に対する改善努力を定期的に公表することを求める。
- 異なる資格・検定試験の結果の比較
 - ・ 各認定試験団体に、C E F Rの対照関係の客観的な検証結果を踏まえた問題、評価の観点、採点基準等を作成し、検証方法を公表することを求める。
※C E F Rと各資格・検定試験との対照表の向上を検討。

<実施方法面>

- 時期・回数制限
 - ・ 実施時期・回数（試験団体）：毎年4月～12月の間、複数回（3回程度）実施可能であること【別紙3】
 - ・ 受検時期・回数（受検生）：受検時期は、高校3年生以降の毎年4月～12月とし、受検可能回数は制限を設けない【別紙4】

※1月～12月の1年間実施・受検可能とすることも検討。

- 実施場所・体制の確保

- ・ 認定試験のいずれかにおいて、センター試験と同等以上の実施場所を確保できるよう、試験団体と調整。

※現在でも、複数の試験団体が対応可能【別紙5】

※離島・僻地への配慮の観点からは、認定試験を活用する場合は全ての試験を対象とする必要。

- ・ 採点者、試験監督者等必要となる人員の質・量を確保することを求める。
- ・ 会場ごとに、認定試験団体が一定の資格を有する試験監督者等を派遣。なお、研修の実施や誓約書の提出により、高校教員にも協力を求める。

- ・ 資格・検定試験については、主に各試験団体において検定試験に対する自己評価がされている。また、現在、第三者評価機関による第三者評価の在り方について検討されている。これらの効果的な活用の在り方も検討。

○ 検定料

- ・ 検定料の割引や複数回受検時の減免等の配慮を求める。
(例：現行の割引等の額以下など)

※現在、複数の試験団体が5,000円程度で実施【別紙6】

	各大学の個別選抜で直接活用する場合	センターが関与して活用する場合
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各大学のアドミッション・ポリシーに適應した、民間の資格・検定試験を自由に選択可能。 各大学では、独自に素点(スコア)をもとに合否判定も可能。 ■ センターが担うコスト負担・責任は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ センターが認定することにより、CEFRに対応した段階別表示など、各資格・検定試験の結果の比較ができる仕組みを提供(対照表の向上、段階別表示の細分化の検討を含む)。 ■ あわせて、学習指導要領との整合性、信頼性・妥当性、受検料負担の抑制等の観点から、必要最小限の水準を担保。 ■ センターが成績提供・受領の中核として機能することにより、大学、受検生、試験団体の手続きの簡素化とセキュリティリスクの軽減。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現状の大学入学者選抜実施要項でも、英語4技能評価を促進しているが、強制力はない。各大学が直接活用する場合、利用促進につながらない恐れ。⇒高校教育も変わらない。 ■ 資格・検定試験ごとに結果の表示が様々(段階、スコア)。大学としても、試験間の結果の比較が難しい面あり。 ■ 離島・僻地や検定料等の観点から、不利益を被る受験生が生じる可能性。 ■ 受検生が個別に手続をする必要があり、大学・試験団体ごとに対応が異なるため、手続が煩雑。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 段階別評価でしか示すことができない可能性があり、識別力が弱い。 ■ センターにおいて、一定のコスト負担・責任が生じる。

英語 4 技能評価の資格・検定試験の成績をセンターが 一元管理する必要性について

<資格・検定試験の成績提供の現状>

- 英語資格・検定試験を活用している大学の成績提供の方法は、各大学の募集要項で個別に規定。
 - A 受検者が、試験団体から認定証等を取り寄せ、直接大学へ送付
 - B 受検者が、試験団体に大学への成績送付を依頼
 - C 受検者の出願に基づき、大学が試験団体に成績提供を依頼
 ⇒大学ごとにそれぞれ対応が異なる。

- 上記に基づき、各試験団体は可能な範囲で対応。
 - ・ 受検者に認定証（成績証明）等を発行（各試験団体）
 - ・ 試験団体から大学にインターネットまたは郵送により、個別に直送
 ()
 - ・ 出願した受検者すべての成績結果をオンラインで一括提供
 (ダウンロード) ()
 ⇒試験団体ごとにそれぞれ対応が異なる。

<課題>

- これまでは、資格・検定試験を活用している受検者は一般入試においてごく僅か。
 - それが、共通テストにおいて、資格・検定試験を活用することとなった場合、50万人分に膨れ上がる。
 - さらに受検者の併願先ごとに同様の手続きが必要となるとともに複数回受検により、50万人×併願数×複数回の作業コストがかかる。
- ⇒手続きの煩雑さ、事務コスト増、セキュリティリスクから共通テストにおける資格・検定試験の活用の実現が危ぶまれる。

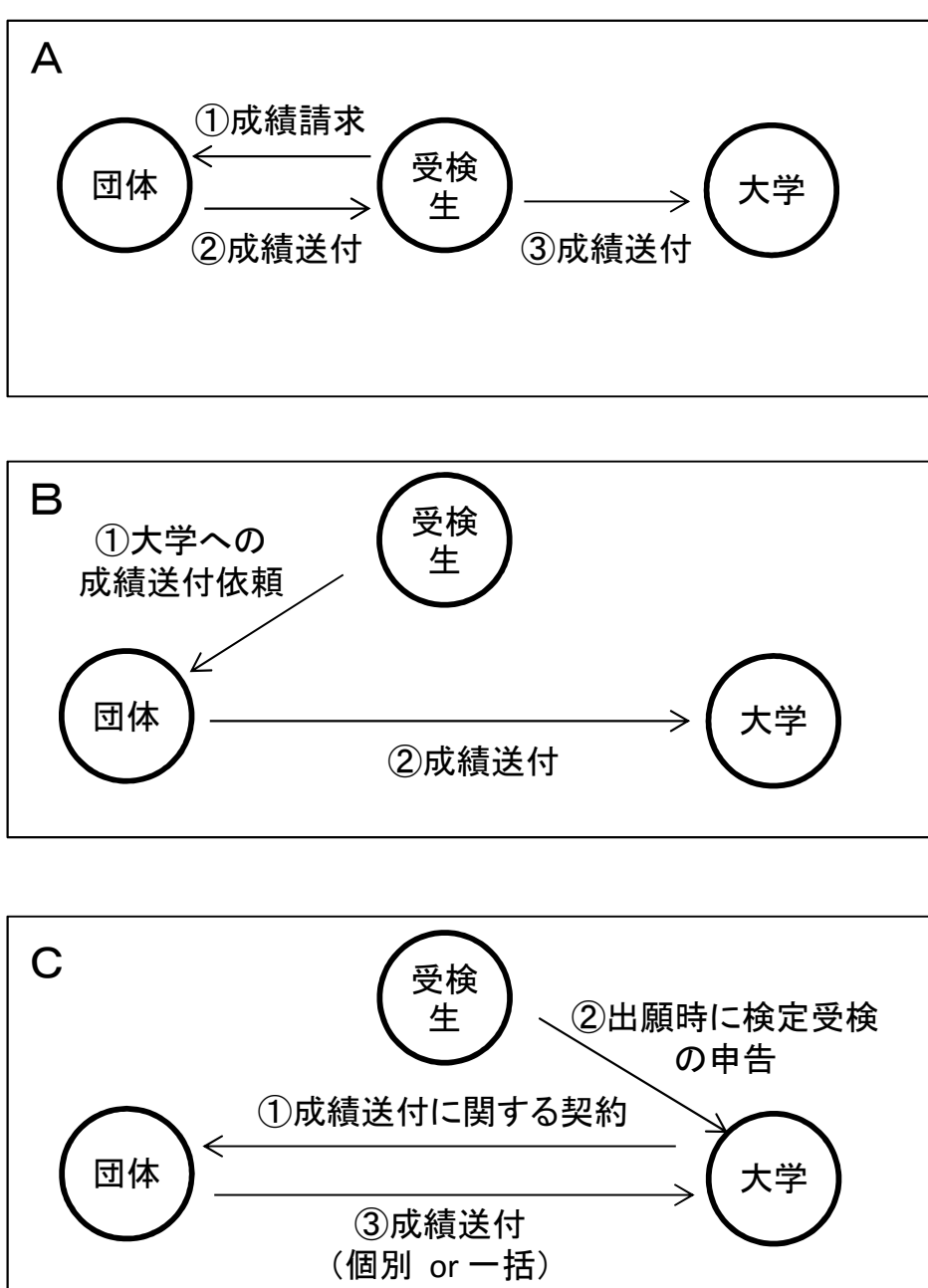
＜活用する方策＞

- このことを踏まえ、認定の仕組みと連動して、センターがデータを一元管理し、これまで個々に行われていた成績提供・受領の中核として機能することにより、
 - ① 一括した提供・受領による大学、受検生、試験団体の各手続きの簡素化とセキュリティリスクの軽減
 - ② 成績受領フォーマットが統一され、大学における成績集計の事務コストの削減
 - ③ データ蓄積による改善、様々な検証などが可能となり、50万人分のデータ管理を実現。

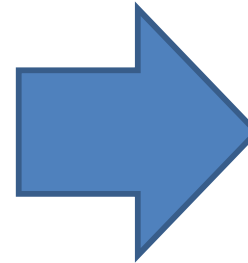
- これらにより、国公立大学における入学者選抜4技能評価を促進する環境を構築。

資格・検定試験の成績提供イメージ

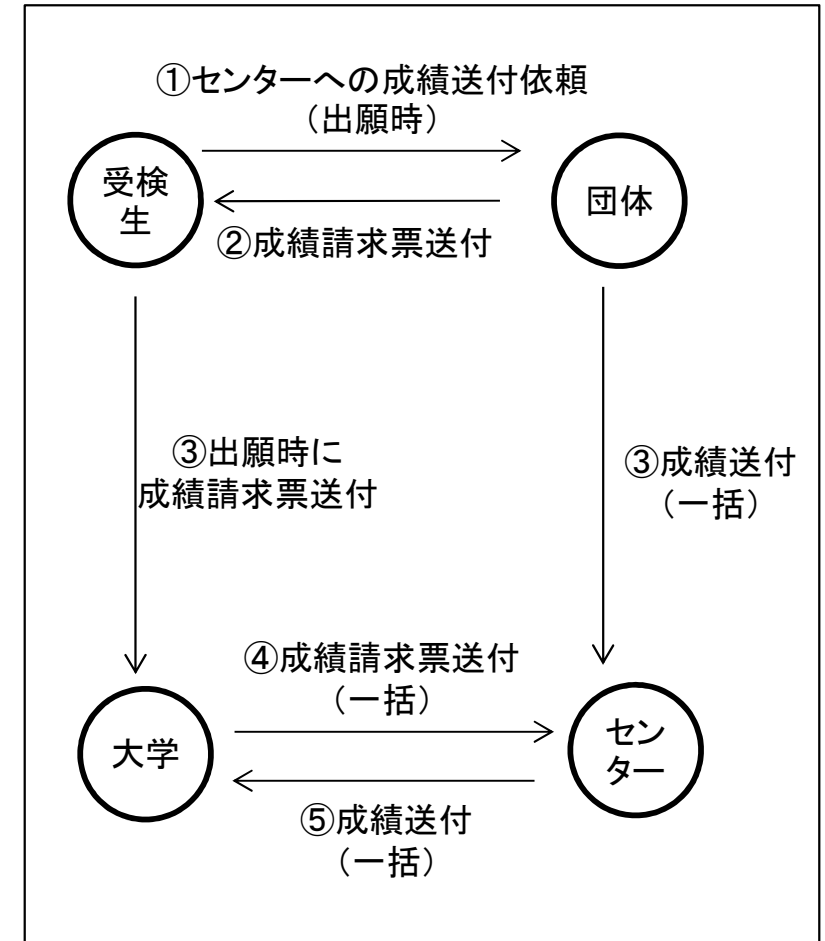
○成績提供の現状



個別対応

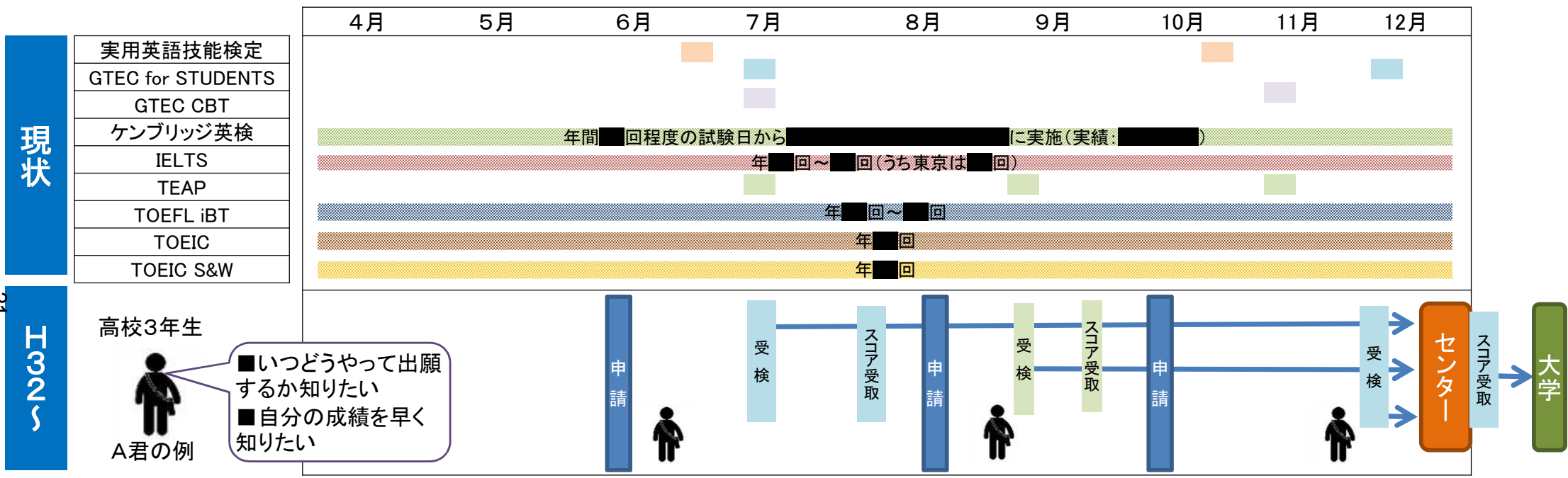


○センターによる一元管理



英語4技能評価実施時期のイメージ

実施時期のイメージ



課題と論点

- 高校1年生、高校2年生の時の結果を利用することを可能とするか。
- 受検回数に制限を設けるべきか。

	受検回数の制限なし	受検回数の制限あり
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ■ 時期を選ばず複数回チャレンジ可能、異なる資格・検定試験を複数回受検可能 ※ CEFRバンドによる段階別の結果表示とすれば、過度の受検者負担にはつながらないという考えもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 経済的格差による影響を抑制 ■ 受検者の受検回数による負担を軽減
課題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 経済的格差による影響を助長 ■ 高校教育への影響(高校1、2年生で一定の成績を収めた場合) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 個人の資格形成に資する民間試験の受検を制限することの妥当性 ■ 高校1、2年生で受検した生徒にとっては二重の負担 ■ 制限する回数の妥当性の担保

外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠（CEFR）について

別添1

- CEFR（Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment）は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て策定された。欧州域内外で使われている。
- 欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施するにあたって用いられたりするなどしている。

熟練した言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

（出典） ブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構

各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5-9.0					
C1	CAE (180-199)	1級 (2630-3400)	1400		7.0-8.0	400	800	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2304-3000)	1250-1399	980 L&R&W 810	5.5-6.5	334-399	600-795	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1980-2600)	1000-1249	815-979 L&R&W 675-809	4.0-5.0	226-333	420-595	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1284-1800)	700-999	565-814 L&R&W 485-674	3.0	150-225	235-415		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (419-1650)	-699	-564 L&R&W -484	2.0					200-380 L&R 120~ S&W 80~

英検：日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>
http://www.eiken.or.jp/association/association/info/2015/pdf/20151218_pressrelease_CSE2.pdf

TOEFL：米国ETS <http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RM-15-06.pdf?WT.ac=clk>

IELTS：ブリティッシュ・カウンシル（および日本英語検定協会）資料より

TEAP：第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

Cambridge English（ケンブリッジ英検）：ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>
<http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/>

GTEC：ベネッセコーポレーションによる資料より
「L&R&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

TOEIC：IIBC <http://www.toEIC.or.jp/toEIC/about/result.html>
「L&R」または「S&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

※各試験団体の公表資料より文部科学省において作成

CEFRとの対応関係に関する検証

ケンブリッジ英検 (B1レベル)	<ul style="list-style-type: none"> ・CEFRと共に開発された経緯(部分的に、CEFRはケンブリッジ英検をベースに設計)
実用英語技能検定試験 (2級)	<ul style="list-style-type: none"> ・英検Can-doリストとCEFRとの比較 ・専門家によって構成されるパネルを中心として、①Basket法*1、②Modified Angoff法*2を使用して検証 ・EALTA(欧州言語テスト・評価学会)エキスパート研究者との共同研究 ・他試験結果(TOEFL PBT,iBT等)との比較
GTEC for STUDENTS	<ul style="list-style-type: none"> ・実際のGTEC受験者によるCEFRレベル別Can-doアンケート結果により検証
IELTS	<ul style="list-style-type: none"> ・有識者によるベンチマーキング ・テスト結果使用者等による関係者からのフィードバックをもとに検証
TEAP	<ul style="list-style-type: none"> ・Can-do アンケートによるCEFRとの比較 ・独立研究機関(CRELLA)との共同研究 ・他試験結果(TOEFL ITP,iBT等)との比較
TOEFL iBT	<ul style="list-style-type: none"> ・Modified Angoff 法*2を使用 ・5,000名以上のテスト受検者データを使用 ・大学や英語教師からのCEFRレベルとTOEFLスコアレベルに関するフィードバックも活用
TOEFL junior comprehensive	<ul style="list-style-type: none"> ・Modified Angoff 法*2を使用 ・15か国、18名の有識者による検討、TOEFL Junior Standard(2技能試験)のマッピングスタディとの調整研究を
TOEIC	<ul style="list-style-type: none"> ・Modified Angoff 法*2を使用 ・22名の有識者による検討
TOEIC S&W	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や英語教師からのCEFRレベルとTOEICスコアレベルに関するフィードバックも活用

*1 Basket法:「(問題に対して)CEFRのどのレベルにある受験者であればこの問題に正解できますか?」という分析手法

*2 Modified Angoff法:「(問題に対して)CEFRの各レベルに相当する受験者が100人いるとして、何名がこの問題に正解できるか?」という分析手法

主な英語の資格・検定試験

試験名	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC	TOEIC S&W
実施団体	ケンブリッジ大学 英語検定機構	日本英語検定 協会	ベネッセコーポ レーション Berlitz Corporation ELS Educational Services ※一般財団法人進学 基準研究機構(CEES) と共催	ベネッセコーポレ ーション Berlitz Corporation ELS Educational Services	ブリティッシュ・カウ ンシル、 ケンブリッジ大学英 語検定機構 日本英語検定協会 等	日本英語検定 協会	テスト作成： ETS 日本事務局： CIEE	テスト作成： ETS 日本事務局： GC&T	テスト作成： ETS 日本事務局： IIBC	テスト作成：ETS 日本事務局： IIBC
受験人数	国内人数非公表 ※全世界では約 250万人	約263.5万人 (H26実績)	非公表	約81万人 (H27見込)	約3.6万人 (H27速報値) ※全世界では250万人	約1.3万人 (H27実績)	非公表	非公表	約240万人 (H26実績) ※TOEICプログラム 全世界約700万人	約2.4万人 (H26実績) ※TOEICプログラム 全世界約700万人
回数 年間	2-3回	3回	3回	2回	約35回	3回	40-45回	2-3回	10回	24回
会場数	全国12会場	公開会場230都市 400会場+準会場 (離島含)17,000会 場	全国57会場	学校会場	—	全国30会場	全国90会場	全国170会場	全国256会場	全国43会場
成績表示 方法	KET/PET/FCE/CA E/CPE(5つ) CEFR、合否、 スコア(80-230)、グ レード	1級~5級 合否による表示 H27~スコア・バンド 併記	0-1400点	0-810点 (S 0-170点)	1.0-9.0 (0.5刻み)	80-400点	0-120点 (4技能を各0- 30点で評価)	0-352点	10-990点 (L、R各5-495 点)	0-400点 (S、W各0-200点)
実施 形式	L, R, W: 紙/CBT S: ペア面接	L, R: 紙/CBT (W): 紙 (S): 面接/CBT (*2)	L, S, R, W: CBT	L, R, W: 紙 S: タブレット	L, R, W: 紙 S: 面接	L, R, W: 紙 S: 面接 (*4)	L, S, R, W: CBT	L, S, R, W: CBT	L, R: 紙	S, W: CBT
受験料	PET(B1) 11,880 円~ KET(A2) 9,720円~(※5)	2級: 5,000円 準2級: 4,500円	9,720円	3,080円 L, R, W 5,040円 L, R, W, S	25,380円	15,000円	230USドル	9,500円	5,725円	10,260円

*1: L=Listening, S=Speaking, R=Reading, W=Writing

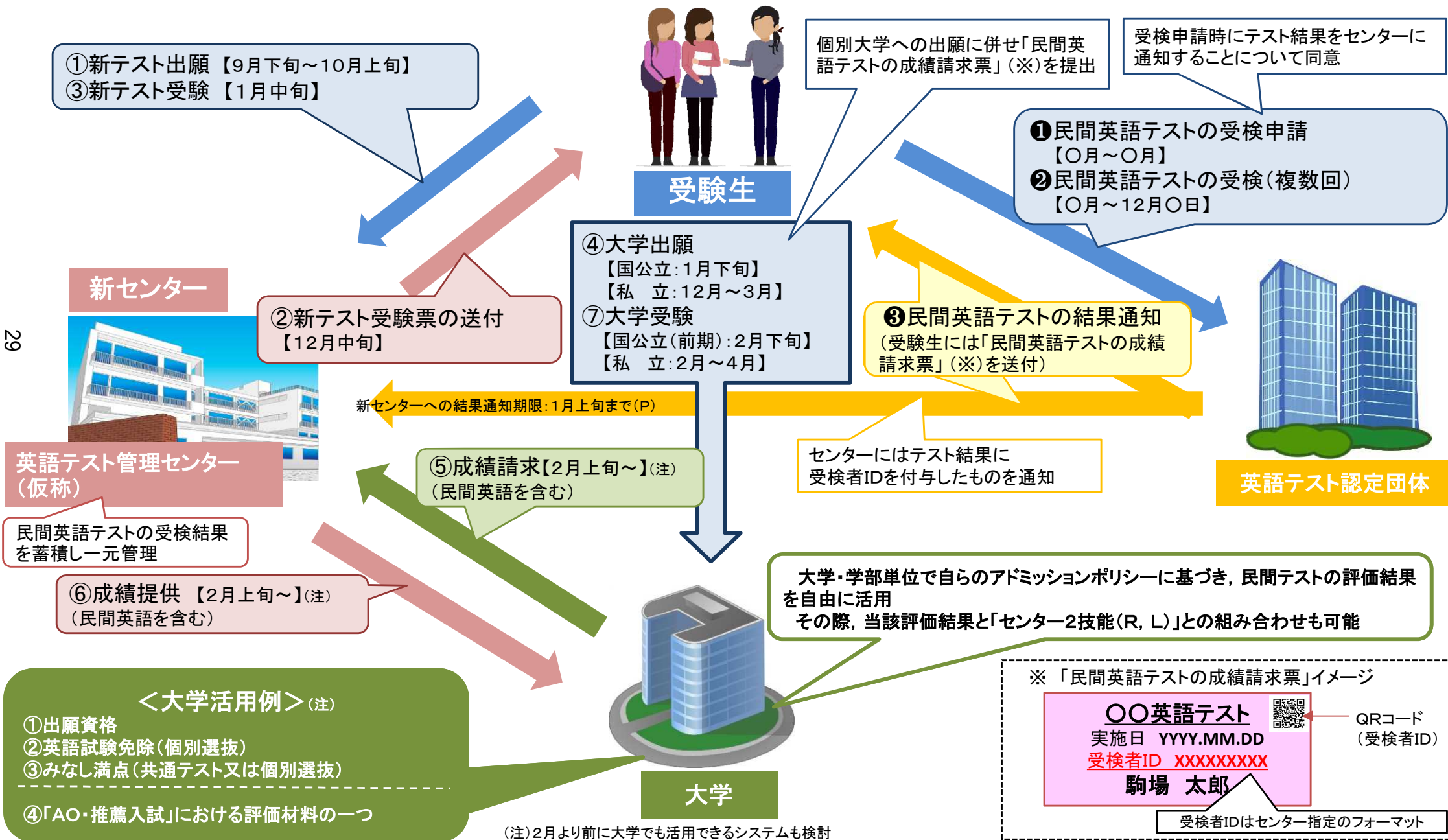
*3: Sはオプション

*4: L/R, L/R/Wでも受験可能

*2: Wは1級・準1級(H28から2級に導入), Sは3級以上(H28から4級・5級に導入)

*5: 実施試験センターにより異なることあり

- 民間英語テストの結果を新テストの一環として位置付ける場合のスキーム
- 大学は「民間4技能」、「民間2技能(S, W) + センター2技能(R, L)」、「民間4技能 + センター2技能(R, L)」などを任意に選択し活用



29

英語民間試験活用例の整理

1. 活用の実態

1-1. 大学における活用例

活用方法	概要	学校区分	センター試験の利用	例	利用者数	CEFR基準
①出願要件	外部試験のスコアにおいて、大学が設定した一定点数(閾値)を超えた場合に、各大学の入学者選抜における受験資格を付与する方式。外部試験のスコアは得点換算されず、個別選抜においても得点は考慮されない。出願要件としての外部試験に加えて、各大学による個別選抜の英語を別途受験する必要がある。	国公立	○	・東京海洋大:2学部の全入試(一般入試含む)で出願要件。センター試験英語あり、個別試験英語なし。	多	A2~
②試験免除	外部試験のスコアにおいて、大学が設定した一定点数(閾値)を超えた場合に、各大学による個別試験における英語の受験は免除される方式。	私立	×	・上智大学全学部:定員の2~3割がTEAP入試。個別試験英語の代わり。	中	A2~
③得点換算 (みなし満点・みなし割合)	・外部試験のスコアを得点に換算した上で、大学が設定した一定点数(閾値)を超えた場合に、各大学の個別選抜や大学入試センター試験における英語の得点を満点とみなす、又は各段階に応じて各大学の個別選抜や大学入試センター試験における英語の得点を付与する(みなし9割、みなし8割等)方式。	国公立	○	・金沢大学国際学類、長崎大学多文化社会学部、国際教養大学国際教養学部など	極少	B2~
		私立	○	・東洋大学、立命館大学など	極少	B2~
		国公立	○	・千葉大学国際教養学部	極少	B2~
		私立	×	・大阪観光大学	極少	B1~
④得点加算	外部試験のスコアを得点に換算した上で、各大学の個別選抜や大学入試センター試験における英語の得点に一定の得点を加算する方式。	国公立	○	・山口大学国際総合科学部	極少	B1~
		私立	×	・立命館大学、大阪国際大学	少	B1~
⑤総合判定の一要素 (AOや推薦)	高校時代の活動を証明する書類の1つ(提出は希望者のみ)	国公立 私立	×	・多くの大学で実施	中	B1~
⑥英語特別入試	英語特別選抜入試・帰国生など少数定員の入試で、基準スコアは非常に高い	国公立 私立	×	・多くの大学で実施	極少	B2~

注:どの大学でも技能分割したスコアではなく、4技能を統合したスコアを使用。

1-2. 民間の英語資格・検定試験の大学入学者選抜における活用実態に関する調査研究事業(文部科学省)

・導入予定を含めて43%の大学が入試に利用(推薦 29% AO 24% 一般 6%)

※大学数ベース(人数ではさらに少ない。国立大学の一般入試では総計で数百人程度)。

- ◆ 次期高校学習指導要領において、
 - 小・中・高等学校で一貫した目標を実現するため、国際的な基準であるCEFRなどを参考に、段階的に実現する指標形式の目標(CAN-DO形式の目標)を設定すること
 - 高等学校卒業段階で求められる力として、必修科目でCEFRのA2相当、選択科目で同B1相当を想定していることが検討されていることを踏まえ、認定された資格・検定試験においても、CEFRのA2及びB1の能力を測定することを求める。

- ◆ 具体的には、現在中央教育審議会では検討中の「国の指標形式の目標」におけるA2及びB1に相当する目標の内容を、認定基準の別紙において明示する。

(参考) 国の指標形式の目標のイメージにおけるA2及びB1の目標 (検討中)

CEFR レベル	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
B1	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。 ○比較的ゆっくりはっきりと話されれば、時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、要点を理解することができるようにする。 ○比較的ゆっくりはっきりと話されれば、馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題に関する比較的短い記事やレポート、資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。 ○短い物語を読んで、あらすじを理解することができるようにする。 ○社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで、概要や要点を理解できるようにする。 ○英語学習を目的として書かれた記事やレポートを読んで、概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公共の場所(店、駅など)において、自分の問題を説明し、解決することができるようにする。 ○身近な話題や興味関心のある事柄について、準備をしないで会話に参加することができるようにする。 ○身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明することができるようにする。 ○身近な話題や関心のある事柄について、まとまりのある内容を話すことができるようにする。 ○関心のある分野のテーマに関する記事やレポート、資料の概要や要点を説明することができるようにする。 ○知識のある時事問題や社会問題について、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の経験や身近な事柄について、複数のパラグラフから成る説明文を書くことができるようにする。 ○関心のある分野のテーマに関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。 ○関心のある分野のテーマについて、まとまりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書くことができるようにする。
A2	<ul style="list-style-type: none"> ○短い簡単なメッセージやアナウンスを聞いて、必要な情報を聞き取ることができるようにする。 ○身近な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。 ○ゆっくりはっきりと話されれば、身近な事柄に関する短い説明の要点を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活において身の回りにある短い平易なテキストから、必要な情報を読み取ることができるようにする。 ○平易な英語で書かれた短い物語を読んで、あらすじを理解できるようにする。 ○身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明や手紙を読んで、概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやり取りをすることができるようにする。 ○身近な話題や興味関心のある事柄について、ある程度準備をすれば、会話に参加することができるようにする。 ○身近な話題について、簡単な英語を用いて簡単な意見交換をすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 ○身近な話題や関心のある事柄について、簡単な説明をすることができるようにする。 ○身近な話題について、自分の意見やその理由を簡単に話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が必要とする事柄について、短い簡単なメモやメッセージなどを書くことができるようにする。 ○身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができるようにする。 ○聞いたり読んだりした内容について、簡単な語句や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができるようにする。

**「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の
英語の「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を評価する問題で
評価すべき能力や作問の構造について（案）**

1. 英語の「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を評価する問題と「思考のプロセス」の関係

(1) 中央教育審議会における「思考のプロセス」及び外国語において育成すべき資質・能力の整理

教育課程企画特別部会では、言語能力を構成する資質・能力が働く過程として、「思考のプロセス」を、「テキスト（情報）の理解」と「文章や発話による表現」を柱に整理している。

まず、「テキスト（情報）の理解」については、テキストの構造と内容を把握し、精査・解釈し、考えを形成する「認識から思考へ」という過程をたどる。

更に、「文章や発話による表現」については、表現するテーマ・内容、構成・表現形式を検討しながら、考えを形成・深化させ、表現するという、「思考から表現へ」という過程をたどると整理している。

その上で、言葉を直接の学習対象とする国語教育及び外国語教育の果たす役割が大きく、言語能力を構成する資質・能力やそれらが働く過程、育成の在り方を踏まえながら、改善・充実を図ることが必要とされている。

加えて、外国語の学習においては、国際的な基準である CEFR（外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠）などを参考に、外国語学習の特性を踏まえて「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」を一体的に育成し、小・中・高等学校で一貫した目標を実現するため、そこに至る段階を示すものとして段階的に実現する指標形式の目標（CAN-DO形式の目標）を設定することとされている。

(2) 英語の「聞くこと」「読むこと」を評価する問題と「思考のプロセス」

英語の「聞くこと」「読むこと」を評価する問題では、まず、上記（1）のうち「テキスト（情報）の理解」（構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成の一部）を経た後、出題者が提示した選択肢の中から、思考の結果と適合するものを選択したり、単語等を短答形式で記述したりする形で、解答する。

(3) 英語の「話すこと」「書くこと」を評価する問題と「思考のプロセス」

これに対して、英語の「話すこと」「書くこと」を評価する問題では、上記（2）の「テキスト（情報）の理解」に加えて、考えたことを文章化したり、発話したりする「文章や発話による表現」（内容・テーマの検討、構成・表現形式の検討、考えの形成・深化、推敲、表現）を経ることが特徴である。

このように、「聞くこと」「読むこと」に加えて、「話すこと」「書くこと」を評価することは、「聞くこと」「読むこと」のみを評価することと比べて、以下の利点が挙げられる。

- α. 思考に当たっての主体性が発揮される
- β. 結論に至る思考のプロセスの自覚が促される
- γ. 表現力の発揮が図られる

2. 共通テストと個別選抜の二次試験とでそれぞれ評価すべき能力や作問の考え方

- 上記の整理を踏まえつつ、英語において評価すべき力の内容としては、以下の4種

類に大別でできる。

- ①テキスト（情報）の内容を把握する力
- ②テキスト（情報）の内容を精査・解釈する力
- ③テキスト（情報）を元に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現する力
- ④テキスト（情報）を元にテーマ・内容、構成や表現形式を検討しながら考えを形成・深化させ、文章や発話によって表現する力

また、CEFR を参考に設定される、外国語教育における段階的な指標形式の目標についても、別紙①のとおり、上述の評価すべき力に沿って整理できる。

- これまでの大学入学者選抜等における英語の問題では、「聞くこと」や「読むこと」の評価の中心となる、「①テキスト（情報）の内容を把握する力」や、「②テキスト（情報）の内容を精査・解釈する力」を問う問題が中心となっている。

今後は、大学入学者選抜等においても、「話すこと」「書くこと」の測定によって、「③テキスト（情報）を元に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現する力」や「④テキスト（情報）を元にテーマ・内容、構成や表現形式を検討しながら考えを形成・深化させ、文章や発話によって表現する力」を評価することが重要である。
（別紙②参照）

- なお、教育課程企画特別部会における議論では、高等学校卒業段階で求められる力として、必修科目で CEFR の A2 相当、選択科目で同 B1 相当が想定されている。
このことを踏まえ、共通テストの英語においては、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の測定において、CEFR の A2 相当及び B1 相当の能力を測定することが可能なテストとすることが必要。

3. 共通テストにおける資格・検定試験の活用の在り方について

- 英語においては、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を測定する複数の資格・検定試験があり、その多くが CEFR の段階的な指標形式の能力記述文に示された力を測定することを目的としているか、各資格・検定試験における得点が CEFR の各段階で求められる力とどのような対照関係にあるのかについての専門的な検証が行われているものである。
- 以上を踏まえ、共通テストにおいては、2. に掲げる内容を測定することが可能なテストであることを確認した上で、資格・検定試験を認定し、評価を行うことを基本とする。
- なお、大学入試センターが現在実施している、マークシート方式の「読むこと」及び「聞くこと」についての英語 2 技能試験（以下、「センター 2 技能試験」）を、当面の間、共通テストの一部として活用する場合には、2. に掲げる共通テストとして評価すべき内容に照らし、
 - ・ 2 技能センター試験において「読むこと」及び「聞くこと」について CEFR の A2 相当及び B1 相当の能力を測定することが可能となるよう、作問の在り方及び測定内容の CEFR に照らした検証の方法について、改善を行うこと
 - ・ センター 2 技能試験を受験する場合であっても、資格・検定試験の「話すこと」及び「書くこと」の結果と併せて 4 技能の評価ができるよう、センター 2 技能試験の評価方法及び結果表示の方法について、改善を行うこと
が求められる。

CEFR レベル	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
B2	<ul style="list-style-type: none"> ○母語話者同士による多様な話題の長い会話を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】 ○身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を理解できるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】 ○自然な速さで話される時事問題や社会問題に関する長い説明を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】 ○ある程度知識のある社会問題や時事問題に関するラジオ番組やテレビ番組を視聴して、概要や要点を理解できるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】 	<ul style="list-style-type: none"> ○関心のある分野の記事や資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】 ○興味のある現代小説や随筆を読んで、概要を理解することができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】 ○時事問題や社会問題に関する記事やレポート、資料を読んで、概要や要点、筆者の姿勢や視点を理解できるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】 	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い話題に関する会話に参加し、情報や自分の意見などを適切かつ流暢に表現することができるようにする。【考えの形成】【テーマ・内容の検討】【構成・表現形式の検討】 ○知識のある時事問題や社会問題について、幅広い表現を用いて議論することができるようにする。【考えの形成】【テーマ・内容の検討】【構成・表現形式の検討】 	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い話題について、即興で、説明したり自分の考えや気持ちなどを話したりすることができるようにする。【考えの形成】【テーマ・内容の検討】【構成・表現形式の検討】 ○幅広い分野のテーマについて、明瞭かつ詳細な説明をすることができる。【考えの形成】【テーマ・内容の検討】【構成・表現形式の検討】 ○多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、様々な見方の長所・短所を示すとともに、自分の意見を幅広い表現を用いて論理的に説明することができるようにする。【考えの形成】【テーマ・内容の検討】【構成・表現形式の検討】 ○聴衆の反応に応じて、発表の内容や方法を調整することができるようにする。【考えの形成】【テーマ・内容の検討】【構成・表現形式の検討】 	<ul style="list-style-type: none"> ○関心のある分野のテーマについて、事実や情報などを明確且つ詳細に伝える説明文を書くことができるようにする。【考えの形成】【テーマ・内容の検討】【構成・表現形式の検討】 ○時事問題や社会問題など幅広い話題に関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】 ○時事問題や社会問題など幅広い話題について、得た情報を活用しながら、自分の意見やその理由を論理的に書くことができるようにする。【考えの形成】【テーマ・内容の検討】【構成・表現形式の検討】 ○Eメール、エッセイ、レポートなどを、それぞれの用途に合った文体で書くことができるようにする。【考えの形成】【テーマ・内容の検討】【構成・表現形式の検討】
B1	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】 ○比較的ゆっくりはっきりと話されれば、時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、要点を理解することができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】 ○比較的ゆっくりはっきりと話されれば、馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、要点を理解できるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題に関する比較的短い記事やレポート、資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】 ○短い物語を読んで、あらすじを理解することができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】 ○社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで、概要や要点を理解できるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】 ○英語学習を目的として書かれた記事やレポートを読んで、概要や要点を理解できるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】 	<ul style="list-style-type: none"> ○公共の場所（店、駅など）において、自分の問題を説明し、解決することができるようにする。【考えの形成】【テーマ・内容の検討】 ○身近な話題や興味関心のある事柄について、準備をしないで会話に参加することができるようにする。【考えの形成】【テーマ・内容の検討】 ○身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。【考えの形成】【テーマ・内容の検討】 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明することができるようにする。【考えの形成】【テーマ・内容の検討】 ○身近な話題や関心のある事柄について、まとまりのある内容を話すことができるようにする。【考えの形成】【テーマ・内容の検討】 ○関心のある分野のテーマに関する記事やレポート、資料の概要や要点を説明することができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】 ○知識のある時事問題や社会問題について、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話すことができるようにする。【考えの形成】【テーマ・内容の検討】 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の経験や身近な事柄について、複数のパラグラフから成る説明文を書くことができるようにする。【考えの形成】【テーマ・内容の検討】 ○関心のある分野のテーマに関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】 ○関心のある分野のテーマについて、まとまりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書くことができるようにする。【考えの形成】【テーマ・内容の検討】

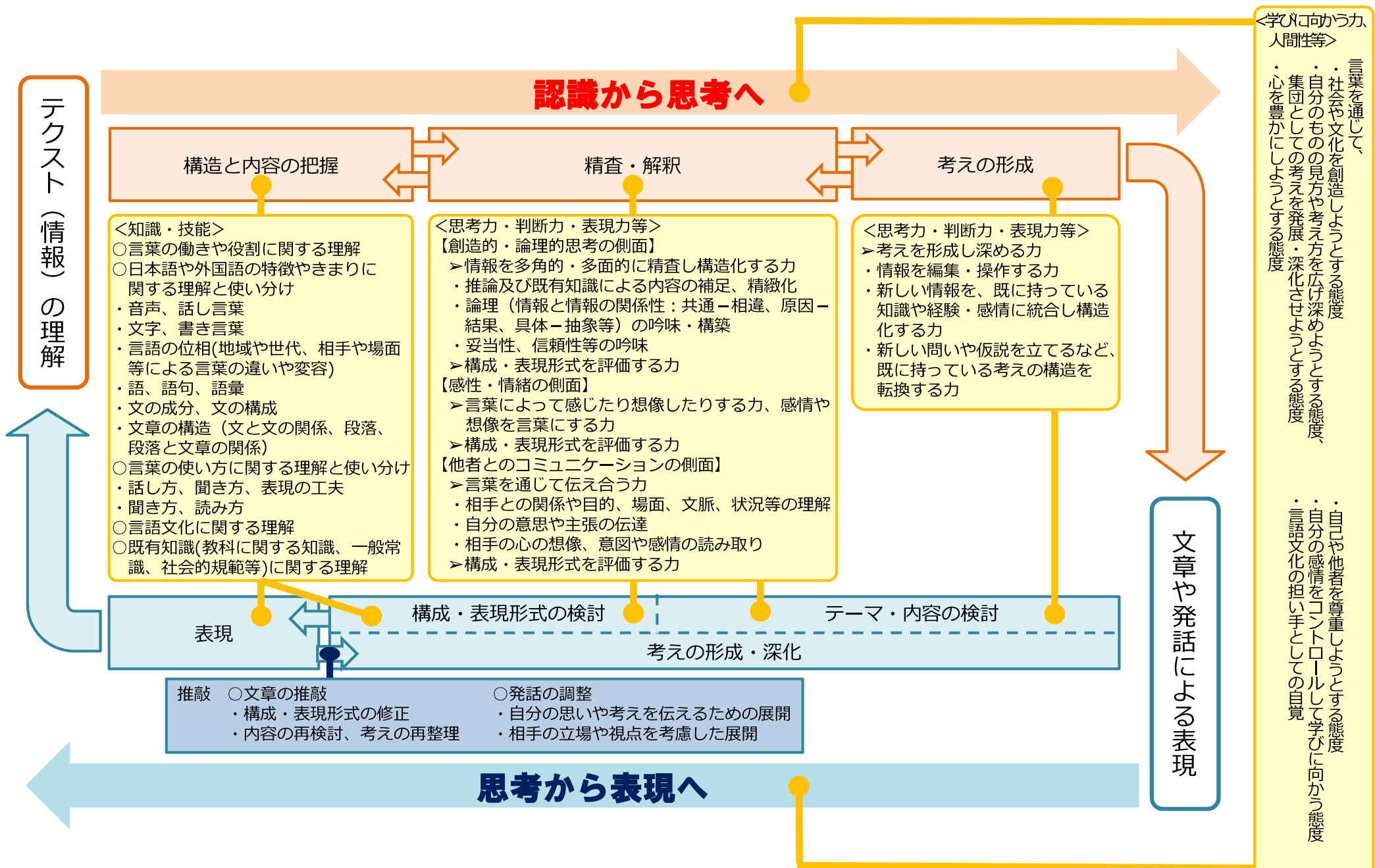
CEFR レベル	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
A2	<p>○短い簡単なメッセージやアナウンスを聞いて、必要な情報を聞き取ることができるようにする。【構造と内容の把握】</p> <p>○身近な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】</p> <p>○ゆっくりはっきりと話されれば、身近な事柄に関する短い説明の要点を理解することができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】</p>	<p>○日常生活において身の回りにある短い平易なテキストから、必要な情報を読み取ることができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】</p> <p>○平易な英語で書かれた短い物語を読んで、あらすじを理解できるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】</p> <p>○身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明や手紙を読んで、概要や要点を理解できるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】</p>	<p>○日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやりとりをすることができるようにする。【精査・解釈】【考えの形成】</p> <p>○身近な話題や興味関心のある事柄について、ある程度準備をすれば、会話に参加することができるようにする。【精査・解釈】【考えの形成】</p> <p>○身近な話題について、簡単な英語を用いて簡単な意見交換をすることができるようにする。【精査・解釈】【考えの形成】</p>	<p>○身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。【精査・解釈】【考えの形成】</p> <p>○身近な話題や関心のある事柄について、簡単な説明をすることができるようにする。【精査・解釈】【考えの形成】</p> <p>○身近な話題について、自分の意見やその理由を簡単に話すことができるようにする。【精査・解釈】【考えの形成】【テーマ・内容の検討】</p>	<p>○自分が必要とする事柄について、短い簡単なメモやメッセージなどを書くことができるようにする。【精査・解釈】【考えの形成】</p> <p>○身近な事柄について、簡単な語句や表現や用いて、短い説明文を書くことができるようにする。【精査・解釈】【考えの形成】</p> <p>○聞いたり読んだりした内容について、簡単な語句や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができるようにする。【精査・解釈】【考えの形成】【テーマ・内容の検討】</p>
A1	<p>○挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。【構造と内容の把握】</p> <p>○日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができるようにする。【構造と内容の把握】</p> <p>○ゆっくりはっきりと話されれば、身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明を、視覚情報などを参考にしながら理解することができるようにする。【構造と内容の把握】</p>	<p>○日常生活において身の回りにある英語の中の語句や単純な文を理解できるようにする。【構造と内容の把握】</p> <p>○平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、視覚情報などを参考にしながら、あらすじを理解することができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】</p> <p>○身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、視覚情報などを参考にしながら、概要を理解することができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】</p>	<p>○相手の発話を理解できない場合など、必要に応じて、聞き返したり意味を確認したりすることができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】</p> <p>○相手のサポート（ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる など）があれば、ごく身近な話題について、簡単な表現を使って質疑応答をすることができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】</p>	<p>○簡単な語句や文を用いて、自分について話すことができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】</p> <p>○日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】</p> <p>○ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて短く話すことができるようにする。【精査・解釈】【考えの形成】</p>	<p>○自分に関するごく限られた情報を、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】</p> <p>○ごく身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。【構造と内容の把握】【精査・解釈】</p>
(Pre-A1)	<p>○アルファベットの発音を聞いて、どの文字であるかがわかるようにする。</p> <p>○挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。</p> <p>○ゆっくりはっきりと、繰り返し話されれば、自分に関することや身近で具体的な事物を表わすごく簡単な語句や文を聞き取ることができるようにする。</p>	<p>○ごく身近にあるアルファベットの文字を識別し、発音することができるようにする。</p> <p>○音声で十分に慣れ親しんだ、ごく身近で具体的な事物を表わす単語を見て、その意味を理解できるようにする。</p>	<p>○挨拶やごく短い簡単な指示に応答することができるようにする。</p> <p>○相手のサポート（ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれるなど）があれば、自分に関することについてごく簡単な質問に答えることができるようにする。</p>	<p>○定型表現を用いて、簡単な挨拶をすることができるようにする。</p> <p>○自分や身の回りの物事に関するごく限られたことについて、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。</p>	<p>○目的を持ってアルファベットの大文字と小文字を活字体で書くことができるようにする。</p> <p>○例文を参考にしながら、音声などで十分慣れ親しんだ語句や文を書き写すことができるようにする。</p>

解答させる内容と資質・能力、出題形式との関係について 【英語】

別紙②

	認識から思考へ		思考から表現へ		
	構造と内容の把握	精査・解釈	考えの形成	考えの形成・深化	
				テーマ・内容の検討 構成・表現形式の検討	
「聞くこと」 「読むこと」	短い簡単なメッセージやアナウンスを聞いて、必要な情報を聞き取ることができるようにする。【L-A2】				
	日常生活において身の回りにある英語の中の語句や単純な文を理解できるようにする。【R-A1】				
	身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。【L-B1】	身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。【L-B1】			
	身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を理解できるようにする。【L-B2】	身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を理解できるようにする。【L-B2】			選択式・短答式
	身近な話題に関する比較的短い記事やレポート、資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。【R-B1】	身近な話題に関する比較的短い記事やレポート、資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。【R-B1】			
	社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで、概要や要点を理解できるようにする。【R-B1】	社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで、概要や要点を理解できるようにする。【R-B1】			
時事問題や社会問題に関する記事やレポート、資料を読んで、概要や要点、筆者の姿勢や視点を理解できるようにする。【R-B2】	時事問題や社会問題に関する記事やレポート、資料を読んで、概要や要点、筆者の姿勢や視点を理解できるようにする。【R-B2】				
「話すこと」(やりとり)	相手の発話を理解できない場合など、必要に応じて、聞き返したり意味を確認したりすることができるようにする。【SI-A1】	相手の発話を理解できない場合など、必要に応じて、聞き返したり意味を確認したりすることができるようにする。【SI-A1】		短答式又は面接式	
		日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやりとりをすることができるようにする。【SI-A2】	日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやりとりをすることができるようにする。【SI-A2】	面接式	
「話すこと」(発表) 「書くこと」		自分が必要とする事柄について、短い簡単なメモやメッセージなどを書くことができるようにする。【W-A2】	自分が必要とする事柄について、短い簡単なメモやメッセージなどを書くことができるようにする。【W-A2】	短答式・記述式	
			知識のある時事問題や社会問題について、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話すことができるようにする。【SP-B1】	知識のある時事問題や社会問題について、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話すことができるようにする。【SP-B1】	
		面接式又は録音式(「話すこと」) 記述式(「書くこと」)	関心のある分野のテーマについて、まとまりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書くことができるようにする。【W-B1】	関心のある分野のテーマについて、まとまりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書くことができるようにする。【W-B1】	
(技能統合型)		多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、様々な見方の長所・短所を示すとともに、自分の意見を幅広い表現を用いて論理的に説明することができるようにする【SP-B2】	多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、様々な見方の長所・短所を示すとともに、自分の意見を幅広い表現を用いて論理的に説明することができるようにする【SP-B2】	多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、様々な見方の長所・短所を示すとともに、自分の意見を幅広い表現を用いて論理的に説明することができるようにする【SP-B2】	
		時事問題や社会問題など幅広い話題について、得た情報を活用しながら、自分の意見やその理由を論理的に書くことができるようにする。【R-B2】	時事問題や社会問題など幅広い話題について、得た情報を活用しながら、自分の意見やその理由を論理的に書くことができるようにする。【R-B2】	時事問題や社会問題など幅広い話題について、得た情報を活用しながら、自分の意見やその理由を論理的に書くことができるようにする。【R-B2】	

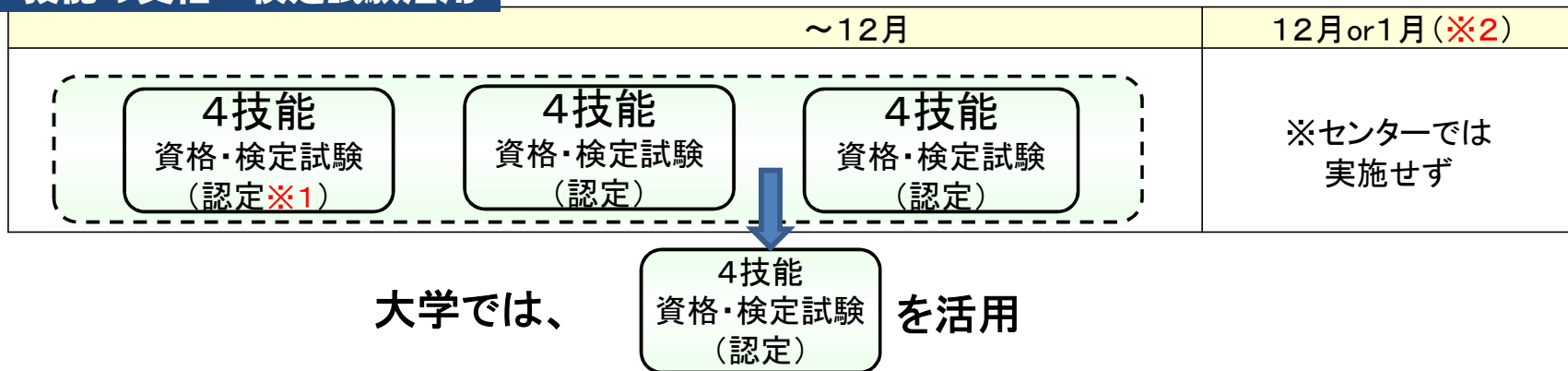
※ 「『外国語』等における国の指標形式の目標(イメージ)たたき台」(中教審外国語WG資料)に掲げるCEFRの各レベルにおける能力記述文からそれぞれ主要なものを抜粋



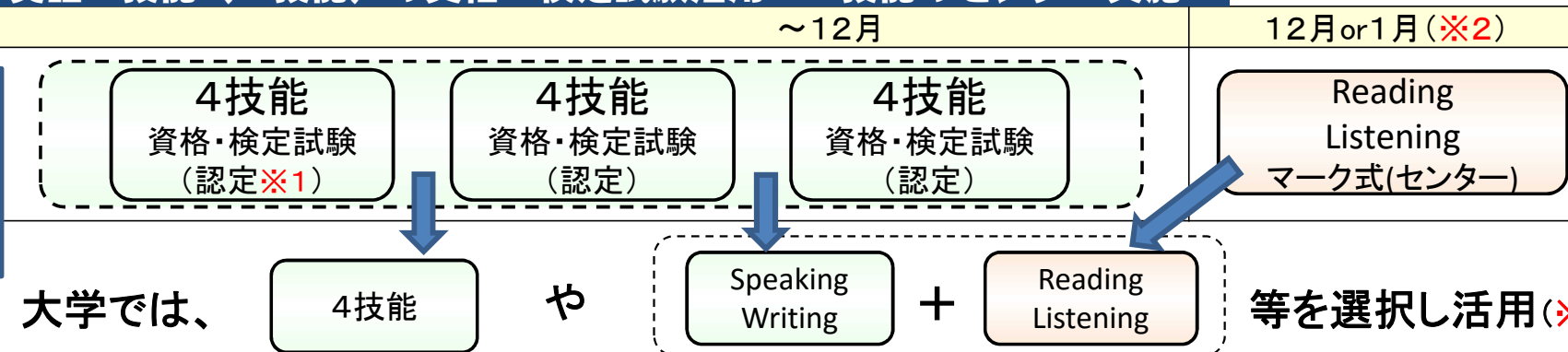
◎8月に示した案

- ・ 資格・検定試験の活用のみによる英語4技能評価を目指す。
（一定の基準を満たすものとして、国(センター)が認定）
- ・ 当面は、センターでも英語共通テスト(読む、聞く)を実施し、民間の資格検定試験の結果と組合せて、評価する。

【案1】4技能の資格・検定試験活用



【案2】英語4技能（2技能）の資格・検定試験活用+2技能のセンター実施



4技能の民間活用【案1】
を見据えながら、当面
センターにおいても試験
を実施する案

※1 認定基準に応じて、①既存の資格・検定試験のカスタマイズ、②新規の資格・検定試験の導入もありうる。
 ※2 センターが実施する時期については、12月と1月の双方が考えられる。
 ※3 大学においては、いずれか（又はその組み合わせ）の活用方式を選択し公表（選抜実施要項に明記）。